

通し行進者 渡邊正郎さんの行進記（沖縄のまとめ、6月7日奄美～鹿児島へ）

沖縄～広島コース、すでに沖縄・奄美大島を過ぎ、現在鹿児島県にきています。行進中の天気は沖縄初日に1時間ほどの霧雨と、奄美大島の最終日に短時間の雨に当たただけで、後はとてもいい天気に恵まれています。

沖縄は6日間行進しました。沿道の街路樹や草花は東京にはないものばかりです。ゲットウの花やデイゴの花、ハイビスカスの花が見ごろでした。

沖縄はやはり“基地の街オキナワ”でした。金網越しに広がる軍事基地・施設の多さに驚かされました。キャンプハンセン第2ゲート前では行進団全員足を止め、シュプレヒコールを力強く行いました。基地内から何人もの米兵や基地に雇われた日本人らしきものが執拗にカメラやビデオ使い、入念に行進参加者を撮っていました。

ゲートそばの金網には「日米安保堅持、雇用・権利・待遇など全て安心、全駐労に入ろう」などと書いた看板が基地公認で張り出されていることに、強い違和感とともに腹だたいしい思いでした。

40トンを超す水陸両用戦車の訓練場とされる現場で説明がされたほか、59年前ジェット機墜落で犠牲者の名前が刻まれた宮森小学校記念碑前で、また戦争中日本の軍隊による住民の悲劇があった「とどろきのガマ」そばで「ミニ学習会」が行進の合間に行われました。みなさん芝生や道路わき地べたに座っての学習でした。平和公園にある「平和の礎」なども急ぎ足で見て回りました。

沖縄の行進では、右翼による妨害もありましたが、若い人たちを中心に歌あり、太鼓や指笛での音ありで、絶えず賑やかな行進となりました。

沖縄からおよそ12時間かけてフェリーで奄美大島に向かいました。途中徳之島の港に降りて「徳之島平和行進」出発式に参加し、すぐに船に乗り奄美には夜8時過ぎに着きました。奄美では龍郷町、奄美市など2日間行進を行いました。



奄美大島名瀬の出発集会では、若い女性のオカリナ演奏から始まり、ベビーカーに子どもをのせて行進に参加したお母さんや、3歳のお孫さんの手を握って一緒に歩くおばあちゃんなど、24名の参加で行進がスタートしました。平和行進団との懇談やアピール署名のとり組み、募金など、事前の申し入れが行き届いていることもあって自治体要請はスムーズに行うことができました。

奄美市最後の行進は午後5時半から約1時間半70名を超す参加者で元気に街中を行進しました。参加者は自ら作ったゼッケンや寄せ書き、ステッカー、のぼり旗をもって参加していました。

私は平和行進が全国隅々で草の根の運動として、実に多彩な内容でとり組まれていることを強く実感しました。

10日の朝、フェリーは鹿児島に着き、県内行進は2週間行われる計画です。鹿児島市内では、行進の昼休みミニ学習会が開かれ、私が持参した横田基地DVDが30分ほど放映されました。

そして今日14日は、知覧特攻平和祈念館前公園から行進をスタートしました。

鹿児島県内の行進は25日午前まで続きその後熊本県に引き継がれます。私は2本ののぼり旗を背負子（しよいこ）にくくりつけ、それを背負って元気に歩いています。

